

報道関係者各位

2023年4月12日  
太陽企画株式会社

## 「HIDARIの続きが見たい！展」TOBICHI東京にて開催！ 国内外で話題の木彫人形によるストップモーション時代劇『HIDARI』 劇中人形やデザイン資料など、制作の裏側を大公開

太陽企画株式会社（本社:東京都港区、代表取締役社長兼CEO:岩井健二、以下「太陽企画」）のアニメーションスタジオ・TECARAT（テカラ）が制作に参画する、ストップモーション時代劇『HIDARI』パイロットフィルム（以下『HIDARI』）の制作の裏側をお楽しみいただける展示を、ほぼ日の「TOBICHI東京」にて開催します。



### イベント詳細

<https://www.1101.com/tobichi/tokyo/exhibition/detail/?p=10857>

数多くの作品と逸話が残る、江戸時代の彫刻職人「左甚五郎」。『HIDARI』は、実存したか否かが定かではないこの伝説的な職人の物語を、江戸の史実と絡めて大胆に再構築し、左甚五郎の作品と同じ“木彫”による人形を使って描く“ストップモーション時代劇”です。本作の映画化を目指して、今回は5分のパイロットフィルム (<https://youtu.be/DpefYPLH67A>) を製作しました。

そして今回、長編映画化を目指す本作の応援イベント「HIDARIの続きが見たい！展」を、糸井重里氏が主宰するウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞（ほぼ日）」が運営するギャラリー「TOBICHI東京」で、2023年4月13日（木）～4月25日（火）まで開催することになりました。木彫人形や、直筆の絵コンテなどの資料展示、大きな画面での作品上映を<入場無料>でお楽しみいただけます。

本作は、公開からわずか1ヶ月でYouTube視聴数175万回を突破！さらに、グローバルクラウドファンディングサービス「Kickstarter」でのサポーター募集は、開始1日で目標の200万円を達成し、4月25日の終了を前に目標達成率500%に到達する勢いを見せています。国内外から話題沸騰の注目作品がどのようにして作られたのか、「木」にとことん拘った映像演出が光る、伝統的かつ新しいジャパニメーション作品の舞台裏をぜひお楽しみください。

## 「HIDARIの続きが見たい！展」について

## 【イベント概要】

「HIDARIの続きが見たい！展」

- ・会期：2023年4月13日（木）～4月25日（火） 午前11:00～19:00
- ・場所：TOBICHI東京（東京都千代田区神田錦町3-18 ほぼ日神田ビル1F）
- ・料金：入場無料
- ・イベント詳細：<https://www.1101.com/tobichi/tokyo/exhibition/detail/?p=10857>

## 『HIDARI』に登場する木彫りでできた人形たちを展示

八代健志率いるTECARAT（テカラ）がひとつひとつ手作りした、美術や小道具、映像のなかで縦横無尽に動いていた木彫り人形たちの本物を、会場では特別に展示いたします。主人公の左甚五郎はもちろん、おおよそ、横幅80cm、高さ50cmもある敵の「犬丸口ボ」の展示も予定しています。細部まで丁寧につくられた人形たちを、いろんな角度から、じっくりご覧ください。本格的にスタートした熱いプロジェクト『HIDARI』の魅力を間近で味わっていただけるのが今回の展示です。



## 『HIDARI』の制作に使われた資料の展示、大きな画面での作品上映も

直筆の絵コンテ、キャラクターデザイン画、人形の試作品や衣装……など制作の際に使われた貴重な資料をできるだけたくさん展示します。どのように検討を重ねて作られていったのか、映像や本物の人形と見比べながら、いつもは見られない制作の裏側を大公開！

また、5分間のパイロットフィルムを会場でも上映します。大きい画面で、より迫力のある『HIDARI』をお楽しみください。



**『HIDARI』プロジェクトの応援グッズ販売、「ほぼ日」よみものコンテンツの連載**

『HIDARI』チームの最終目標は、2028年公開で長編映画を完成させることです。現時点では、3月に完成した5分間のパイロットフィルムを世界中の人に見てもらいながら、一緒にプロジェクトを支えてくれる、パートナーを探しています。『HIDARI』プロジェクトのサイト (<http://bit.ly/hidari-kickstarter>) でクラウドファンディングも受付中ですが、会期中の会場で、劇中で「血しぶき」として使用された「おがくず」をご購入いただくと、全額が『HIDARI』チームへの支援として使われます。その他、ほぼ日では、よみものコンテンツの連載も予定しています。

**<ほぼ日 コメント>**

伝説の彫刻職人、左甚五郎を主人公にしたコマ撮りアニメ『HIDARI』がすごい！と聞いて5分間のパイロットフィルムを見てみると、びっくりするくらい、かっこよくて新しいアニメーションに出会うことができました。5分間の映像だけでもかっこいいのに、長編映画が完成したら、きっと、すごい作品になるに違いない！『HIDARI』の続きが見られるように、わたしたちほぼ日は、『HIDARI』の長編映画化を応援します。長編映画化を目指すためにも、まずはたくさんの方に『HIDARI』の魅力を知ってほしい。この展示が、そのきっかけになれば嬉しいです。

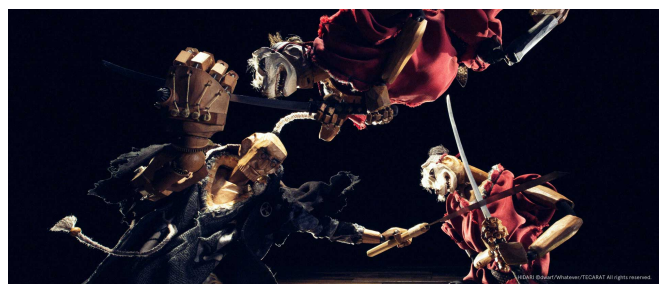
**『HIDARI』パイロットフィルムについて****木彫人形のストップモーション+時代劇による、日本独自のエンターテインメント作品！**

「彫った動物に命を吹き込む。」「実在したか定かでない。」など、数多くの逸話が残る、伝説の彫刻職人、左甚五郎。残した作品のなかでは、とくに、日光東照宮にある「眠り猫」が有名です。その左甚五郎を主人公として、「木彫人形のコマ撮り」という手法で制作した作品が、ストップモーション時代劇『HIDARI』です。

世界で人気を誇る日本産コンテンツ「ジャパニメーション」。海外のアニメーションとはまた違った独特の映像文法、ダイナミックなアクション表現などで、独自の発展を遂げてきました。そのジャパニメーションの世界を、これまでほとんど試みられてこなかったストップモーションという技法で描き出すことで、誰も見たことのないようなエンターテインメント作品を生み出しました。

そして、その物語の舞台も、ジャパニメーション発祥の地である日本古来のエンターテインメント「時代劇」。まさに日本独自の美意識が詰まった、類を見ない映像表現となっています。

本作の人形は全て木彫で作られ、映像の魔法を使って命を吹き込んでいます。木彫のテクスチャを活かしたキャラクターや義手のデザインはもちろんのこと、斬られた時の血の代わりに「おがくず」が吹き出すといった、木ならではの素材感を活用した演出も発明し、独自の映像美を作りだしています。



報道関係者各位

2023年4月12日  
太陽企画株式会社

原案・脚本・監督を務めるのは、国内外で数々の賞を受賞し米誌Creativityにて「世界のクリエイター50人」にも選出された、川村真司氏。そして、クリエイティブ・スタジオ Whatever、世界のストップモーション界を支える最高峰のアニメーションチームである、ドワーフスタジオとTECARATが共同制作しました。また、HIPHOPシーンを牽引するSPIN MASTER A-1とShing02が音楽を担当し、躍動感溢れる殺陣のシーンやエンディングも見どころの一つとなっています。



## 【作品概要】

- ・タイトル：ストップモーション時代劇『HIDARI』パイロットフィルム
- ・本編URL (尺) : <https://youtu.be/DpefYPLH67A> (5分32秒)
- ・メイキング動画URL : <https://youtu.be/VHO6rTyyG6M>
- ・『HIDARI』公式Twitter : [https://twitter.com/hidari\\_movie](https://twitter.com/hidari_movie)
- ・『HIDARI』公式Instagram : [https://www.instagram.com/hidari\\_movie/](https://www.instagram.com/hidari_movie/)
- ・クレジット : ©dwarf/Whatever Co./TECARAT

## ▼ STAFF (※抜粋)

原案／脚本／監督：川村 真司  
共同監督／キャラクターデザイン：小川育  
声の出演：森一馬、緒方賢一  
アニメーター / アクション・クリエイター：稲積君将  
アニメーター：オカダシゲル  
木彫／立体キャラクターデザイン／コンセプトアート：八代健志  
音楽：SPIN MASTER A-1、Shing02  
プロデューサー：松本紀子、相原幸絵、及川雅昭、大内まさみ  
クリエイティブディレクション：Whatever  
プロデュース／アニメーションスタジオ：ドワーフ  
造形・美術制作：TECARAT



## 制作者プロフィール

## 川村 真司 [原案／脚本／監督] (Whatever Co.)



180 Amsterdam、BBH New York、Wieden & Kennedy New Yorkといった世界のクリエイティブエージェンシーでクリエイティブディレクターを歴任後、クリエイティブ・ラボPARTYを設立。その後、2019年に新たなクリエイティブ・スタジオWhateverを設立し、チーフクリエイティブオフィサーに就任。数々のグローバルブランドのキャンペーン企画を始め、プロダクトデザイン、テレビ番組開発、ミュージックビデオの演出など活動は多岐に渡る。カンヌ広告祭をはじめとした世界の数々の賞を受賞し、アメリカの雑誌Creativityの「世界のクリエイター50人」やFast Company「ビジネス界で最もクリエイティブな100人」、AERA「日本を突破する100人」などにも選出されている。

## 小川 育 [共同監督／キャラクターデザイン] (ドワーフ)



東京芸術大学大学院在学中からコマ撮りアニメーション制作を始める。オリジナルのキャラクターやショートフィルムのディレクターを担う一方で、Netflixリラックマシリーズ1作目『リラックマとカオルさん』にADとして参加。2作目「リラックマと遊園地」ではADを務めながらエピソードディレクターを担当。スピード感あふれる演出とコミックタッチのキャラクターデザインが持ち味。それを活かしつつ、コマ撮りの現場コントロールに精通する立場でHIDARIに参画。NHKプチプチ・アニメ『空き缶のツナ』は小川の完全オリジナルのショートフィルムシリーズ。現在、ディレクターを務めるシリーズ・プロジェクトが進行中である。

## 八代 健志 [木彫／立体キャラクターデザイン／コンセプトアート] (TECARAT)



CM制作会社太陽企画(株)にて、CMディレクターとして実写を中心に活動する傍ら、様々な手法のストップモーションアニメーションを扱ってきた。2012年から本格的に人形アニメーションの制作を開始。2015年、太陽企画内にアニメーションスタジオTECARAT(テカラ)を立ち上げ、現在は人形アニメーションを軸足に活動している。脚本・監督とともに、美術制作、アニメート、木彫による人形造形なども手がける。手から作り出される美術の素材感を大切に、ストップモーションアニメーションならではの映像を目指している。

『ごん GON, THE LITTLE FOX』(2019)は、約160以上の国際映画祭にて受賞・オフィシャルセレクションに選出。最新作『ブックラポッタと森の時間』(2021)は、毎日映画コンクールアニメーション部門にて大藤信郎賞を受賞。「Brain Online Video Award (BOVA)」用に制作した「Hair album」(タカラベルモント)(2021)では人形造形とアニメートを担当し「D&AD Awards 2022」アニメーション部門にて<Yellow Pencil>を受賞。

▶ プレスリリース画像素材: <https://xfs.jp/mkboxK>

<本件に関するお問合せ・取材申込み>

太陽企画株式会社 広報室 (担当: 菊地) [pr@taiyokikaku.com](mailto:pr@taiyokikaku.com)